

令和元年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

可児市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、その改善を図る。
- ・可児市教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、その改善を図る。
- ＊本調査の結果は児童生徒の学力の特定の一部を示すものであり、この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

(2) 対象学校・児童生徒

- ① 可児市内全公立学校 【11小学校（6年生） 5中学校（3年生）】

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数/数学 英語は中学校のみ）② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

(4) 調査日 平成31年4月18日（木）

2 可児市における調査結果の概要

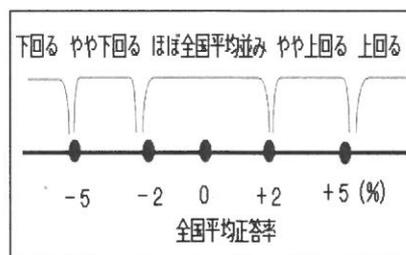
(1) 教科に関する調査結果の分析の概要

- 全体的には、小学校は、全国平均をやや下回りました。

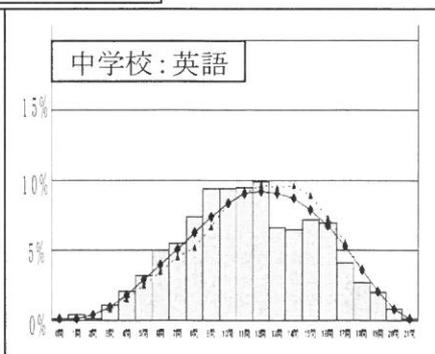
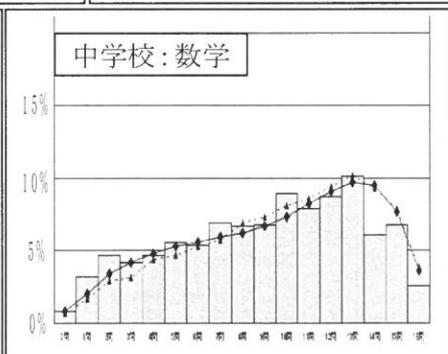
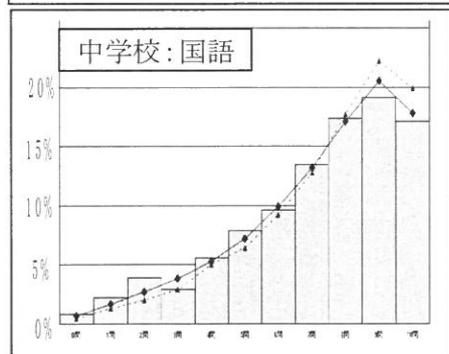
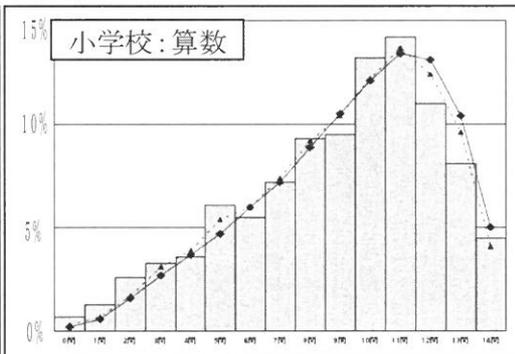
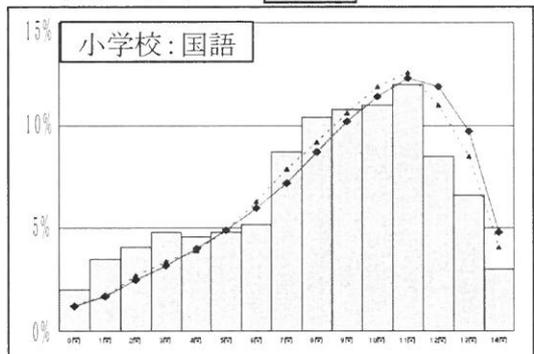
- ・小学校国語では、全国平均を下回った。
- ・小学校算数では、全国平均をやや下回った。

- 全体的には、中学校は、ほぼ全国平均並みでした。

- ・中学校国語では、全国平均並みでした。
- ・中学校数学では、全国平均をやや下回った。
- ・中学校英語では、全国平均並みでした。



- 正答数の分布  可児市 …▲…岐阜県 —◆— 全国 横軸：正答数 縦軸：割合



- ・小学校国語は、正答数が少ない児童の割合が高い。また、正答数の多い児童の割合は低い。
- ・小学校算数、中学校数学は、正答数の多い児童生徒の割合は低い。
- ・中学校国語は、全体的に正答数の割合は、全国・岐阜県と同じである。

○ 課題となる特徴的な設問

〔 〕内は、設問の概要や出題の趣旨 ()内は、評価の観点

〔小国〕 「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く」(言語についての知識・理解・技能)

〔小国〕 「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」(書く能力)

〔小国〕 「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」(言語についての知識・理解・技能)

〔小算〕 「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」(数学的な考え)

〔中数〕 「反比例の表から、xとyの関係を式で表すことができる」(数学的な技能)

[中数] 「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」(数量や図形などについての知識・理解)

[中英] 「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる」(言語や文化についての知識・理解)

<課題解決への手立て>

□ 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得

小学校国語では、全国平均を下回った結果となりました。特に、正答数が少ない児童の割合が高く、語句についての理解力が不足しているなど、基礎的・基本的な知識・技能の習得に弱さが見られました。辞書や資料などを使ってより語句の理解を図ったり、日常的に日記や作文を書く機会を多くしたりするなど、基礎的・基本的な知識及び技能の定着をさらに図ります。また、家庭との連携を図りながら、児童生徒の定着状況の見届けを確実に行っていきます。

□ 主体的・対話的で深い学びのある授業の充実

小学校算数・中学校数学では、正答数の多い児童生徒の割合がやや低い結果となりました。日常生活の事象を表やグラフを用いて考察したり、示された情報を関連付け根拠を明確にして記述したりする力などを、仲間と関わりながら学ぶことで、問題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をさらに伸ばすような授業改善を図ります。

(2) 児童生徒質問紙に関する調査の分析の概要

各質問項目に対する回答の割合は、ほとんど全国平均並みでした。その中で、全国平均と比べて、「回答1「当てはまる」回答2「どちらかといえば当てはまる」が、全国平均より特に高かった(低かった)項目」について、以下に示します。

質問内容	小学校	中学校
【自己について】		
自分には、よいところがあると思いますか	81.4(+0.2)	77.4(+3.3)
将来の夢や目標を持っていますか	80.5(-3.3)	70.0(-0.5)
【学校生活について】		
学校のきまりを守っていますか	96.5(+4.2)	97.7(+1.5)
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.6(+0.5)	95.8(+0.7)
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	78.2(+4.2)	79.7(+8.1)
【家庭学習について】		
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	1時間以上 72.0(+6.0)	1時間以上 73.2(+3.4)
【地域とのかかわりについて】		
今住んでいる地域の行事に参加していますか	81.1(+13.1)	71.9(+21.3)

ほとんどの児童生徒は、「自分にはよいところがある」と認識しており、学校、家庭、地域が一体となって個に寄り添う支援がなされていると考えられます。学校では、学校のきまりを守ったり、仲間とよりよい生活づくりを行ったりするなど、まじめに学校生活を送っていると言えます。将来の夢や目標をもつことができるようにすることが今後の課題です。家庭における学習時間は全国平均より多いですが、学力の定着を考えた時、課題(宿題)の与え方、またその見届けを確実にを行うようにしていきます。可児市の特徴として、地域の行事に進んで参加できる児童生徒が多く、学校、家庭、地域が連携して子どもを育てる風土が定着しており、今後も大切にしていきたいです。

3 全国学力・学習状況調査の活用について

- ・本調査において、正答率が低い問題については、市全体で課題を共有し、全職員の共通理解をもとにして、日々の授業改善に取り組みます。
- ・各小中学校においては、これまでの全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びが授業の中で行われる学習をさらに充実させます。また、「わかる、できる授業」となるように岐阜県が重視している「3つの見届ける(実態を見届ける・学習状況を見届ける・定着状況を見届ける)」を確実にを行う授業を目指して取り組んでいきます。
- ・引き続き、『家庭生活の5つのポイント』を活用して、保護者に「学力」と「児童生徒の意識・生活面」とのつながりについて伝えていきます。「①生活リズムを整える ②時間を活用する ③ふれあう時間をつくる ④よさを認め、励ます ⑤地域との関わりを深める」ことで、家庭における基本的な学習習慣や生活習慣の確立を図ります。